

3 へらウキの使い方



へらウキの動きを見て、読んで釣るのがへら鮎釣りの最大の魅力です。つまり、へらウキはへら鮎を釣るうえで、非常に重要な道具です。それを有効に使うための基礎知識を覚えましょう。

1 へらウキの説明

へらウキは大まかに3つの部分からできています。上から赤や黄色などの色が付いた細長い部分をトップ、次に全体の中で一番太い真ん中の部分をボディ、下の部分を足と呼びます。



右から浅ダナ釣り向き、チョーチン釣り向き、底釣り向きのウキのタイプ。へらウキは水深に合わせたボディサイズを選ぶことが基本。

2 へらウキの種類

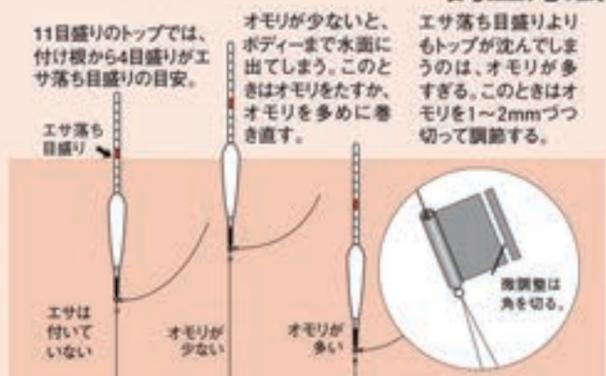
へらウキには様々な種類があります。釣り方を大まかに3つに分けると、浅ダナ釣り、チョーチン釣り、底釣りとなり、それぞれの違いは釣る(ねらう)水深(タナ)となります。水深が浅ければウキは小さめ、深ければ大きめが基本です。目安は、浅ダナ釣り=ボディ5~7cm、チョーチン釣り=ボディ10~15cm、底釣り=細めのボディ10~15cmとなります。



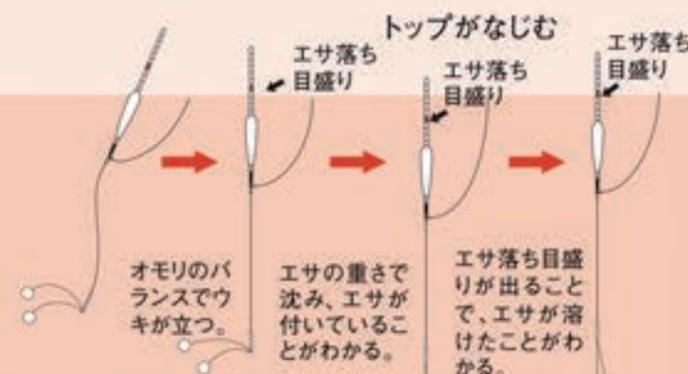
3 エサ落ち目盛りの決め方

エサ落ち目盛りとは、エサが付いていない状態でバランスを取った時に基準とするトップの目盛りのことです。基本は、トップ全体の約4分の1が沈んだあたりに設定します。この調整は板オモリの量で行ないます。

●オモリの調整方法



4 ウキの動きナジミ



●エサ落ち目盛りの役割

エサを付けて仕掛けを投入すると、ウキは沈みます。先ほどのエサ落ち目盛りより沈めば、エサが付いている証拠です。このエサが付いた状態でウキが沈むことをナジミと呼びます。このナジんだ状態からエサが徐々に溶けて少なくなってくると、ウキは少しずつ浮いてきます。これがナジミの基本的な動きです。



ウキの動きを見て水中のへら鮎の動きを想像する。このかけ引きがへら鮎釣りの面白さ。

5 ウキの動きサワリとアタリ

エサ打ちを何度も繰り返していくと、ナジミの動きに変化がでます。ナジむスピードが遅くなったり、ウキが上下動します。これは魚が寄ってきたという合図で、サワリと表現します。このサワリは、そろそろアタリが出ますよという合図でもあり、このサワリのあとに出る力強く鋭い動き(ウキが水中に引き込まれる)がアタリで、この動きが出たら合わせます。